

新潟県

山崎 泰宏 (新潟工科大学)

2005年度の新潟県の活動として、特別講演会「生産施設の耐震・制振技術と都市防災—新潟県中越地震の経験を踏まえて—」と、公開シンポジウム「環境保全に向けた我が国のエネルギー分野の取り組みと研究・技術情勢」を開催しました。本稿では、その内容と成果について簡単に紹介させていただきます。

特別講演会では、機械構造物の耐震技術の開発研究や国内外の生産施設・機械構造物の地震被害を調査されてきた鈴木浩平氏と、(社)土木学会緊急災害調査団のメンバーとして中越地震の被害調査に参加された岩楯敏広氏に、機械系構造物の耐震技術と中越地震による土木構造物の被害、都市防災のあり方などについてご講演頂きました。大きな被害をもたらしたあの中越大震災の発生からすでに1年以上が過ぎましたが、未だ残る地震の爪痕は数多く、復興は未だ道半ばというのが現状です。このような状況の中、多数の学生・一般の方々のご参加を頂き、改めて地震防災対策について考える良い機会となったものと思われまふ。講師

の先生方のわかりやすく興味深いご講演のおかげで、聴講した多数の学生から機械学会入会の問い合わせがあり、本講演会の趣旨を達することが出来たものと喜んでおります。

公開シンポジウムは、環境保全に向けた我が国のエネルギー分野の取り組みと研究・技術情勢に関する情報交換を行い、新潟県内における産学協同プロジェクトの可能性を探ることを目的として、講演とプラント見学の本柱のシンポジウムを企画しました。本シンポジウムでは、東北電力(株)、三菱重工業(株)および県内工科系3大学に所属する講演者に、ユーザー、メーカー、研究機関のそれぞれの立場からご講演を頂きました。さらに、東北電力(株)のご協力により、国内コンバインド発電プラント発祥の地である東新潟火力発電所内施設見学も行いました。折しも、2005年年末の新潟大停電で「電気の大切さ」を痛感させられた私たちにとって、タイムリーな内容のシンポジウムになってしまいましたが、本シンポジウムがこの分野における産学連携の一助となることを希望いたします。

長野県

一年に見る主な活動

倉澤 英夫 (長野工業高等専門学校)

アルプス、軽井沢に代表される山紫水明な地、あるいは善光寺参りで知られる仏都長野のイメージは観光立県長野を多くの人は思い浮かべるのではないのでしょうか。しかし、一方で岡谷・諏訪地域を中心に多くの精密工業、機械工業が県内くまなく存在し、工業の盛んな県でもあります。

我が長野県でも他県同様、大学を中心に、産・官・学の連携が益々進み、各種のプロジェクト、地域との連携が進んでおります。このような状況下で、工業の中心は何といっても機械と自負するところで、今まで以上に機械学会の活動も重要となりましょう。

私はシナノケンシ(株)の田中さん共々、今年度県幹事をお引き受けし、今残すところ1ヶ月余となりました。ここに今年度の長野県の主な行事をご紹介します。新年度早々、長野県工科短期大学の石黒先生にお願いし、特別講演会の企画をしていただきました。先生には快くお引き受け頂き、企画から実行まで一手に処理され、「未来を開くユビキタスネットワーク」なる時代を読んだ講演を計画してくれました。演題の通り若者受けする内容で、学生を中心に多数の方が聴講されました。恥ずかしいことながら、

私もこの言葉は時々耳にしていたものの、その意味は知らずこの講演で始めて知り、今後恥じをかかずに済みます。また、秋には「技術講演会・見学会」が日精樹脂工業(株)のご協力により開催できました。当社は射出成形機でのトップメーカーであり、企業、学生、教員とさまざまな分野の方が参加されました。射出成形機の変遷、最先端技術の紹介、更に実際の成形を目の前に見ることができました。最後に大きな行事として3月始めに「学生員卒業研究発表講演会」および「総会・講演会」がそれぞれ長野高専と信州大学で開かれます。特に「学生員の発表会」について、我が長野高専に取りましては、学生に意識的に発表を進めたり、当日のお手伝いを願ったりで、結果的に若い人の学会への関心となじみが増し、活性化への一助になるものと確信しています。なお、この機に長野へ訪れた中の多くの方は観光立県長野にも貢献頂き、善光寺参り、スノーボード等に興じて頂いたものと思ひます。

富山県

山田 茂 (富山大学工学部)

富山県支部の特別講演会は、2005年11月18日に清華大学教授でNPO法人、創業支援推進機構理事長の紺野大介氏を招き「産学連携のあるべき姿と中国との頭脳競争」と題して行われた。講師の今野先生は、東大で学び、荏原製作所の事業部長から時計のセイコーへ移籍され、取締役CTOにまで就任されました。辞められてからは、技術評価を通して創業起業を総合的に支援するシンクタンクを上記のNPO法人として自ら立ち上げられ、現在、実績のある事業の成功者OBや学者、さらには、現役の研究者など、500人ぐらいの非常に大きなネットワークを束ね、ベンチャーの事業から大企業の技術評価、あるいは、起業の支援まで、幅広いボランティア活動を精力的に展開されている。また一方で、北京の清華大学の客員教授を長年に渡ってされておられ、中国の要人関係とご親交が厚く、国家関係者から中国通として非常に信頼されている方です。その他、氏の出身地である福井県松平藩の俊英 橋本左内が15歳のときに著した『啓発録』の英訳本を自費出版され、それを世界の主要大学の図書館やクリントン大統領、中曽根元総理をはじめとする世界の要人に配るなど、ユニークな人柄の持ち主です。講演は、中国は日本よりも貧しいと思

われがちだが、これは大きな間違いであり、今一億人程が、日本人と同じレベルの生活を送っているのだから、日本と中国は対等に付き合える関係であるから始まった。次に、現在の中国におけるGDPとそれに対する政府の科学技術予算の割合やR&D支出など、過去10年間の推移データを駆使し、現在の科学技術発展の趨勢や、目標として掲げられている今後10年間の10大ブレイクスルーテクノロジーについて話された。さらには胡錦濤国家主席の『科学発展観』についてなど、中国事情に精通しておられればこそ知り得るような貴重な生きた情報も盛り込まれ、その内容は興味あるものであった。特に印象深かった一つは、中国では個々の科学技術プロジェクトに対して、欧米と同じ独立した評価機関が存在し、それが有効に機能し、科学技術の発展に大いに寄与している。しかし、日本ではその評価機関がなく、国家予算の有効利用がいま一歩である。もう一つは、大学教育についてであり、中国では、広大な国土に多くの大学が散在しているので、各大学の学生に清華大学レベルの講義を聴かせるためには、どうしたらよいのか？ に対する答えとして、2000年に軍事衛星ではなく、大学単独の遠隔教育用の静止衛星を打ち上げ、地方の優秀な人材を教育し活用しているという話でした。

石川県

金沢大学工学部の移転と新しい講習会

多田 幸生 (金沢大学)

昨年8月～9月にかけて金沢大学工学部の人間・機械工学科、機能機械工学科、土木建設工学科の3学科が金沢市内の小立野地区から角間町へ移転しました。前年度までに3つの学科が既に移転しており、大型実験施設を除くと工学部の移転が完了したことになります。新キャンパスの建物(写真)は、実験室、講義室、図書館、会議室、食堂などが通路によって連結されているのが特徴です。一旦、建物に入るとどこに行くにも傘は不要で、念願の「雪国仕様のキャンパス」となりました。また、屋上にはソーラーパネルが設置され、電力の一部が賄われています。新しい建物に負けないように、教育・研究活動に取り組みたいと考えております。

さて、この新キャンパス内の総合メディア演習室を利用して、2005年度の石川県行事として、「CAE技術者のための計算力学講習会」が11月7日に開催されました。機械学会では2003年度から「計算力学技術者(二級固体力学有限要素法技術者)」の認定事業をスタートしており、この講習会はその公認講習会です。受講者は受験に必要な認定試験付帯講習(技能編)が免除されます。ただし、有効期間は5年間です。当日の講習会は金沢大学大学院助教授の坂本二郎先生が中心になって

企画して頂きました。計算力学技術者認定の概要説明の後、「CAEの設計最適化への活用」と題して、金沢大学大学院教授の山崎光悦氏の特別講演がありました。その後、1人1台のPCを使って、ADVENTURE on Windows (Windowsで動作する大規模計算力学システム、フリーウェア、<http://adventure.q.t.u-tokyo.ac.jp/jp/>を参照)を用いた有限要素解析(線形弾性解析)の実技講習が行われました。

知識だけでなく、様々な解析技術を身につける機会を設けている点で新しい試みであり、有意義な講習会であったと思います。今後、このような会員のスキルアップに役立つ講習会を増やしていくことも支部の活性化の一環として重要であると思われます。



金沢大学自然科学研究科棟(手前が講義棟、奥が自然科学1～3号館)

福井県

自動車関連産業振興へ、 シンポジウム・講演会企画

松下 洸^{ひろし} (福井大学)

一昨年の支部ニュースで県幹事の岩井教授から報告があった2004年1月開催のシンポジウム「地域における自動車産業の現状と展望」は、その開催が契機となって2004年9月に福井県内の企業が福井県自動車部品製造協会を立ち上げるという成果を生み出しました。地域の異業種を横断する企業連携に学会が一役買った例として特筆に値する成果です。2005年3月には早速、協会と福井大学などが共催で産官学セミナー「地域における自動車部品製造分野の研究教育の高度化」を開催し、自動車産業振興の他県の取組みに学ぶとともに技術相談会を開催して自動車部品製造産業の高度化を図りました。今期2005年度、福井県では支部主催行事として地域自動車部品製造シリーズ第3弾のシンポジウムを開催し、やはり自動車産業を支える最新加工技術に関する特別講演会を開催しました。両者とも協会と共催でした。

産業横断型と銘打ったシンポジウム「地域における自動車部品製造分野の高度化のための基盤整備」(2006年1月開催)では前2回の成果を引き継いで、県下で自動車産業への参入を果たしている中堅、新進2企業からその経験を学ぶ機会を設けました。基調講演にはアイシン・エイ・ダブリューを率いて一流企業に育てた元会長の丸木氏を招いて、異分野参入を成功させた経営哲学を、豊富な経験・人脈に裏打ちされた簡明な語り口でかたってもらいましたが、参入目的の明確化、自社技術の確立、管理技術の高度化など参入の要諦として語られた示唆に富む内容は広い年齢層の聴衆それぞれに強いメッセージとなった筈です。

染色業をルーツとする繊維メーカー、セーレンの高津氏から

は自動車内装材への参入をきっかけに学んだ品質保証・納期管理技術をバイオ関連も含む他産業への展開に役立てている現状と、最近のカネボウの繊維生産部門を傘下に収めての一貫生産体制確立までの事業展開が紹介されました。同社はITを活用した一貫生産体制の構築とカネボウの繊維事業再生への取組みの功績で今年2006年2月に第2回の関西財界セミナー大賞を受賞しました。メガネフレームの塑性加工を自動車部品へ転用して成功を収めている新進企業ジャロックの武澤氏からは独自のコンピュータ制御スウェーピング加工機の開発を中核に据えて競合他社との差別化を図っている企業戦略が語られました。この大小異なる企業規模からの2件の参入事例講演は参入を検討している企業に大変有益であったに違いありません。これらの成果が学会と産業界との緊密な連携に基づく企画から生み出された点は特筆されます。なお、支部ではジャロックの技術力とシンポジウムを通しての支部への貢献に対して今期の支部技術賞授与を決定しました。

特別講演会「最先端加工技術によるものづくりー最新加工技術とそれを支える基盤技術の最新動向ー」(2006年2月)では、日産自動車の戸澤氏から将来の自動車に要求される一層の安全性・環境適合性に必要となる部品製造のための超高速微細金型加工などの高精度・高効率の加工についての講演があり、福井県を代表する工作機メーカー、松浦機械製作所の天谷氏からは複合加工の5軸加工機、金属光造形高速切削加工機など、日本が世界をリードする加工機技術の講演がありました。講演後の質疑では参加企業からの技術相談に両講演者からの的確なアドバイスがありました。総合討論ではそれぞれに海外生産のための加工機グローバル化および競争力を高めるための加工機複合化の道が示されました。1時間半の講演時間と相まって多角的で掘り下げた内容の講演会で、聴講者に十分満足のゆく内容でした。

研究会紹介

SMD研究会

本SMD研究会の意味は「Structural and Material Design研究会」を略称したものです。すなわち「構造と材料設計研究会」ですが、その具体的活動は構造設計法と材料設計法に関連した新しい研究成果などを情報交換する場の提供で、年1回のシンポジウムを開催しています。昨年は10月29日に第25回シンポジウムが金沢大学の新しいキャンパスである自然科学研究科棟で58名が集まり開催されました。その研究内容は次のようなものでした。

1. 膜破壊を伴うハニカムセル構造材の設計・開発
2. 生分解性複合材料の成形と力学的評価
3. 骨盤の側面衝突を考慮した動的負荷実験とその考察
4. CFRP積層板の曲げ強度の時間、温度、吸水量依存性

特別講演 骨粗鬆症性骨折を防ぐための骨の生体医工学的研究

5. 患者別モデルを用いた骨粗鬆症脊椎の骨折解析
6. 微小繊維充填樹脂の発泡性と諸特性
7. DEMによるPC系積層板の衝撃貫通破壊解析
8. 射出成形過程における金型内成形現象可視化

このように本研究会では、FEM、DEM等の構造数値解析法を用いて、新しい構造最適化手法の開発やバイオメカニクス分野への貢献、また新しい材料設計法の開発を複合材料やナノレベルでの材料組織構成から工夫する研究が多く見られます。本研究会の第1回シンポジウムは1981年(昭和56年)に行われており、おそらく機械学会北陸信越支部では最も長い活動を行っている実績のある研究会だろうと思われます。現在の所この研究会の世話は、金沢工業大学の宮野研究室と金沢大学工学部の尾田研究室が各年交代で行っており、また基本的にシンポジウムの参加資格も自由ですので、御関心のある方は上記の研究室に御連絡いただければ幸いです。

第10回北陸信越支部賞

支部賞選考委員長

石田 多丸 (東工シャッター)

北陸信越地区における機械工学・機械技術の振興と支部事業の発展を目的として創設された支部賞として、技術賞、貢献賞、優秀講演賞、学生賞の受賞者が下記のとおり決定されましたので、報告致します。表彰は2006年3月9日開催の第43期北陸信越支部総会・講演会(信州大学)で行われ、賞状と記念品が贈呈されました。なお、優秀講演賞と学生賞(卒業研究発表の部)の賞状と記念品は後日受賞者に郵送されました。

1. 技術賞：2件

- ①石川県工業試験場：多加充彦，古本達明，嶺陰士朗，渡辺工業株式会社：細田豊治，石岡督透の各氏
技術名：栗の皮むき省力化機器の開発

<受賞理由>

栗の鬼皮を効率的に処理する機械的手法を考案すると共に人手の省力化を図り、石川県能登地区における「むき栗」の安定供給体制の確立に貢献した。

- ②株式会社ジャロック：坪田陽平，武澤清則，西木千秋の各氏

技術名：エンジン点火装置部品用スウェージングマシンの開発

<受賞理由>

軸対称部品を塑性加工するスウェージングマシンを開発し、製造時間・コストの大幅な短縮を実現した。眼鏡産業から自動車部品産業への参入事例として評価した。

2. 貢献賞

竹内正紀氏 (福井大学工学部)

<受賞理由>

支部長(第42期)，副支部長(第28期)，支部県幹事(4期)，支部評議員(1期)，支部商議員(7期)等などを通じて、北陸信越支部の振興に大いに貢献した。

3. 優秀講演賞

第43期北陸信越支部総会・講演会における講演評価用紙の集計結果にもとづき、一般から2名，学生から5名の受賞者を選定した。

<一般の部：2件>

- ①寺島正二郎 (新潟工科大学)

振動吸収機能を有する車椅子用キャスターの開発 (第2報)

- ②佐伯暢人 (新潟工科大学)

廃電線の振動選別

<学生の部(日本機械学会フェロー賞)：5件>

- ①菅康志 (新潟大学大学院)

シュリンクフィッターを用いた皮膚科用レーザーピンポイント治療装置の試作

- ②前田哲也 (長岡技術科学大学大学院)

ローラ挟持搬送系における紙のスキュー

- ③桐田陽子 (信州大)

熱磁気モーターの磁気回路の最適設計(温度場と磁場解析に基づく感温磁性体形状の検討)

- ④日下部佳香 (信州大学大学院)

サボニウス形水車周り流れの可視化

- ⑤中林正隆 (信州大学大学院)

動的に変有効長さバネを備えたフィンによる流体内推進機構

4. 学生賞 学生会活動の部：1件

山岸郷志君 (長岡技術科学大学)

<受賞理由>

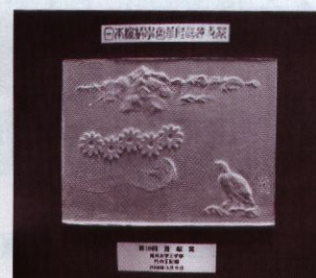
「メカライフの世界展」において、空を飛ぶ機械の不思議さや興味深さを紹介し、小中学生に機械工学の楽しさを伝える企画を実施した。また、新潟県中越地震時の被災校への募金活動の中心的役割を果たした。

5. 学生賞 卒業研究発表の部

- ・秋生哲志 (信州大学工学部)
- ・森 和紀 (長野工業高等専門学校)
- ・中村仁紀 (新潟大学)
- ・斎藤慎一 (富山大学工学部)
- ・柳憲一郎 (富山大学工学部)
- ・平本知之 (金沢大学工学部)
- ・島倉智弘 (金沢工業大学)
- ・中島大輔 (金沢工業大学)
- ・山口光弘 (福井工業高等専門学校)
- ・山浦 司 (信州大学工学部)



技術賞楯



貢献賞楯



技術賞
(石川県工業試験場・渡辺工業(株))



貢献賞
(竹内正紀氏)



技術賞
((株)ジャロック)



学生賞
(山岸郷志君)

日本機械学会北陸信越支部学生会は、5県の大学・高専の17校で構成されており、平成17年度は、委員長校が信州大学工学部、幹事校は、信州大学繊維学部、長野高専、長岡高専、富山高専、金沢大学、福井大学にお願いして1年間の活動が始まった。北陸信越支部学生会としての主な活動は、年2回の幹事校会（実際は、全学校が出席）、メカライフの世界展の実施、全国学生研修会出席、第35回学生員卒業研究発表講演会である。昨年度は、新潟県中越地震による被害を受けた長岡高専への義援金活動等が行われたが、本年度は、そのような活動は行われなかった。ここに、平成17年度に行われた活動を報告する。

1. 幹事校会の開催

第1回幹事校会が平成17年7月2日に長野高専で行われた。16校24名の学生と教員1名の参加があった。通常通りの議題が審議された。また、懇親会もあわせて行われ、参加者の情報交換が活発に行われた。第2回幹事校会は、11月12日に長野高専で行われた。16校22名と教員1名の参加があった。第1回と同様、審議と情報交換が行われた。



第2回幹事校会

2. メカライフの世界展の実施

メカライフの世界展が、信州大学繊維学部、長岡技術科学大学、富山大学、石川高専、福井工業大学、富山高専、長岡高専の7校で実施された。昨年度は、都合で実施できなかった学校も本年度に実施した。本部から配分された予算の中で、学生会の予算からできる限り援助させていただき、どの学校もすばらしい成果を上げることができた。実施した学校名のテーマ名と実施日は以下の通りである。

石川高専	7月30日
「ロボットを動かそう！」	
富山大学	8月5日
「金属疲労の機構と最新研究」	
長岡技術科学大学	9月17日
「空飛ぶ機械工学」	
福井工業大学	10月8日～10日
「自然から学ぶプロセス制御技術」	
信州大学繊維学部	10月8日～10日
「機能機械プロジェクト」	
富山高専	10月22日、23日

「浮上する乗り物を作って遊ぼう！」

長岡高専

11月19日

「地震・復旧・元気な高専」



石川高専

「ロボットを動かそう！」

3. 全国学生研修会の出席

第43回全国学生研修会が北海道学生会主催で平成17年8月17日～19日の2泊3日にわたって行われた。教員、学生総勢42名の参加者であった。新千歳空港に集合した参加者は、大滝セミナーハウスと室蘭岳山麓総合公園宿泊施設で研修を行い、日本製紙白老工場、日本製鋼室蘭工場等を見学した。全国から参加者が集まり、機械工学に関する学習や研究についての討論や学校の情報交換などを行って有意義な研修となった。本支部からは、学生、教員の2名が参加した。



日本製紙白老工場にて

4. 第35回卒業研究発表講演会

学生会としての大きなイベントのひとつが卒業研究発表講演会である。本年度は、平成18年3月8日に長野工業高等専門学校において開催された。111件の申し込みがあり、昨年度よりは少ないものの、例年通りの発表件数になった。参加者は、正員60名、学生員160名、一般4名、合計224名であった。本年度も優秀な発表者には、支部から卒業研究発表の部に学生賞を贈られることになっており、以下の10名の学生諸君が受賞された。

秋生哲志 (信州大学)、斎藤慎一 (富山大学)、島倉智弘 (金沢工業大学)、中島大輔 (金沢工業大学)、中村仁紀 (新潟大学)、平本知之 (金沢大学)、森和紀 (長野工業高等専門学校)、山浦司 (信州大学)、山口光弘 (福井工業高等専門学校)、柳憲一郎 (富山大学)。

さらに平成17年度、第10回支部賞学生賞において、学生会に多大な貢献をした理由により、山岸郷志 (長岡技術科学大学) 君が受賞した。

日本機械学会学生員研修会を終えて

上田 庸孝 (信州大学大学院工学系研究科2年)

今回、学生員研修会ということで初めて北海道を訪れました。夏の北海道は涼しく、非常に過ごしやすい環境に驚きました。

今回訪れた北海道の歴史の一つに、札幌農学校（北海道大学の前身）の開校があげられます。ここではマサチューセッツ州立農科大学より招かれたクラーク博士らが中心となり、新渡戸稲造など世に優秀な人材を輩出し札幌開拓に大きく貢献しました。札幌農学校の学生たちは、札幌で有名な時計台（演武場）で兵式訓練や講義を受けていたそうです。

このような歴史を経て発展してきた大都市札幌を中心に、先日世界自然遺産に認定された知床半島など見所いっぱいの北海道の中でも、今回の研修ではモエレ沼公園（札幌市）・日本製紙工場（白老町）・日本製鋼所（室蘭市）を中心に見学させていただきました。

1. モエレ沼公園（札幌市）

モエレ沼公園は、札幌市の市街地を公園や緑地の帯で包み込むという「環境グリーンベルト構想」における北東部の拠点公園として建設されたそうです。189haという広大な土地に、彫刻家のイサム・ノグチ氏が設計した建造物が点在するスケールの大きな公園でした。中でも今回は雪冷房システムを完備したガラスのピラミッドを見学することができました。



モエレ沼公園
ガラスのピラミッド

ここでは、冬の間に降った雪を一週間かけて貯蔵庫へ運び、その雪を冷房が必要な夏場に冷熱エネルギーとして利用しています。そのおかげで二酸化炭素の排出を極力抑えられるというわけです。このようにすばらしい技術があるわけですから、化石燃料に依存した現在の生活を少しでも風土に根ざし環境へ配慮した技術を有効活用した生活へ、移行していかなければならないと実感しました。

2. 日本製紙工場（白老町）

研修二日目の午前、日本製紙さんの室蘭工場にて製紙工程を見学させていただきました。

紙は木材チップから繊維質（パルプ）を取り出し、それを薄く平らに整え、水分を取り除くことで出来上がります。こちらの工場ではこれらの工程を大規模な装置で、人の手をほとんど加えず自動で行っていました。完成した紙は、長さ約5～10メートル、直径約2～3メートルのロールとなって仕上がります。普段私たちが利用している紙は、元をたどればこの大きなロールから切り出されたものだとも驚きました。

3. 日本製鋼所（室蘭市）

午後からは日本製鋼所さんを訪れました。こちらでは、鍛造・鍛造を駆使し発電所で使用されるタービンのような大型の製品を中心に製造されていました。また、日本刀の製造も行われており、作刀風景も見学させていただくことができました。私たちが暑くて近寄りたがたい状況の中でも、真剣なまなざしで黙々と鍛錬されている様子からは職人としての熱い思いが感じられました。



鍛刀所 作刀風景

その後室蘭市内を観光し、翌日にはボーリング大会、他校の学生との交流の中で互いに切磋琢磨し励ましあえる友人との出会いなどとても充実した三日間でした。

最後に

今回研修を企画・運営してくださった北海道支部の皆様へ深くお礼申し上げます。この経験を今後の活動に活かし、日本機械学会をより多くの人たちに認知されるよう活動していきたいと思っております。

事務局から

■第43期総会・講演会

平成18年3月9日、信州大学工学部で開催。講演件数225件。参加者数384名。

■第43期総会・第45回商議員会

1. 第43期（平成17年度）事業報告、会計報告
2. 第44期商議員および支部役員承認
3. 第44期（平成18年度）事業計画および予算の審議
4. 支部賞に関する規定変更
5. 北陸信越支部賞贈呈
6. 平成17年度学生員増強功労者表彰

■北陸信越支部事務局の移転

キャンパス移転に伴い、支部事務局が移転しました。

（新住所）〒920-1192 金沢市角間町 金沢大学工学部人間・機械工学科内

日本機械学会北陸信越支部事務局

電話・FAX 076-234-4668（電話とFAXの番号は従来どおりです。）

●学生員増強功労者表彰

表彰校		表彰理由
石川工業高等専門学校	機械工学科	b
信州大学	機能機械学科	b
富山県立大学	機械システム工学科	b
富山大学	機械知能システム工学科	a
長岡技術科学大学	機械創造工学課程	b
長野工業高等専門学校	電子制御工学科	b
新潟大学	機械システム工学科	a
福井工業高等専門学校	機械工学科	b

表彰理由 [a:30名以上の入会 b:定員の20%以上の入会]

■ニューズレターのWeb配信のお知らせ

平成18年度（第44期）より支部のニューズレターは印刷物による配布を止め、支部のWebページを通じて配信致します。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

■機械学会メーリングリストへの登録のお願い

平成18年度より支部の総会・講演会の案内は、葉書から電子メールに変更致します。また、各種の支部行事の案内を電子メールでも配信する予定です。つきましては、日本機械学会のメーリングリストに未登録の方は登録をお願い申し上げます。

<登録の方法>

- (1) 本会Webの会員専用ページ
(<https://www2.jsme.or.jp/mypage/index.html>)
よりID、パスワードを入力してログインする。
- (2) 「会員情報」をクリックする。
- (3) 6ページ目のEmailによる情報受信希望の有無という欄の中の「支部」にチェックを入れる。

会員情報変更

名簿掲載・Email情報受信
 購入予約の申込みを
 する (¥5,000円) しない

「勤務先名称・所属」 「役職」 「勤務先電話番号」 「勤務先FAX番号」
 「E-Mail」 「自宅住所」 「自宅電話番号」
 (名簿に掲載しない場合、チェックをはずして下さい。)

名簿掲載可否
 勤務先電話番号 (代表) 0 (半角数字およびハイフン/例: 03-5360-3500)
 勤務先FAX番号 (代表) 0 (半角数字およびハイフン/例: 03-5360-3500)
 ※会員名簿に代表番号の記載をご希望の場合は、上記にご入力ください。直通電話に代わり名簿に印字されます。

Emailによる情報受信希望の有無
 本会 部門 支部
 (希望しない場合、チェックをはずして下さい。)

戻る 登録情報の確認

■第43期（平成17年度）実施の行事一覧■

月 日	行 事 内 容	開 催 地
2005年3月8日	第34回学生員卒業研究発表講演会	新潟
3月9日	第42期総会・講演会	新潟
5月20日	特別講演会 ME X 金沢2005セミナー「繊維機械の技術革新とジェット織機における最新技術」	石川
6月10日	特別講演会「マイクロマシンと微細シリコン接合」	新潟
7月13日	特別講演会「未来を開くユビキタスネットワーク」	長野
11月2日	見学会 日精樹脂工業株式会社, 最新の射出成形機動向	長野
11月7日	講習会 CAE技術者のための計算力学講習会	石川
11月18日	特別講演会「北陸から世界に輝く超精密工作機械と先進加工技術」	富山
12月6日	特別講演会「環境配慮型生産のための電気防加工」	新潟
12月8日	特別講演会「熱流体技術の現状と産業界での応用」	富山
2006年1月13日	特別講演会「生産施設の耐震、制振技術と都市防災」—新潟県の中越地震の経験を踏まえて—	新潟
1月18日	公開シンポジウム「環境保全に向けた我が国のエネルギー分野の取り組みと研究・技術情勢」	新潟
1月26日	特別講演会「工学の目で見るスポーツ」	石川
1月27日	産業横断型シンポジウム「地域における自動車部品製造分野の高度化のための基盤整備」	福井
2月23日	特別講演会「最先端加工技術によるものづくり—最新加工技術とそれを支える基盤技術の最新動向—」	福井
3月8日	第35回学生員卒業研究発表講演会	長野
3月9日	第43期総会・講演会	長野

■第44期支部役員■

担 当	氏 名	所 属
支部長	白 櫻 正 高	長岡技術科学大学
副支部長(石川県幹事)	沢 田 学	中村留精密工業(株)
庶務幹事(兼石川県幹事)	岩 田 佳 雄	金沢大学
会計幹事(兼石川幹事)	多 田 幸 生	金沢大学
学生会担当幹事	石 田 博 明	石川工業高等専門学校
長野県幹事	深 田 茂 生	信州大学
〃	瀬 戸 毅	セイコーエプソン(株)
新潟県幹事	井 原 郁 夫	長岡技術科学大学
〃	伊 藤 正 伸	イーグルブルグマン(株)
富山県幹事	坂 村 芳 孝	富山県立大学
〃	安 岡 学	(株)不二越
福井県幹事	川 谷 亮 治	福井大学
〃	山 内 紀 宏	轟産業(株)

発行所 (社)日本機械学会北陸信越支部
 〒920-1192 金沢市角間町
 金沢大学工学部人間・機械工学科内
 T E L & F A X (076) 234-4668
 E-mail : jsme-hs@t.kanazawa-u.ac.jp
 U R L http://www.jsme.or.jp/hs/
 発行者 日本機械学会北陸信越支部 支部長 白櫻 正高
 編集者 北陸信越支部第43期ニューズレター編集委員会